

高等部

習字

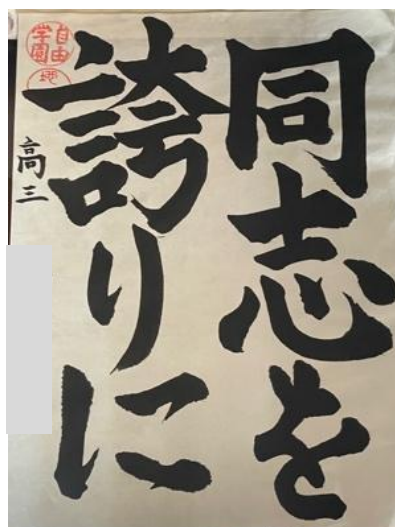
佐藤史伸 松坂政広 近藤紫織

共学化した 2024 年度の習字も週に 1 回、生徒が各自で考え、選んだ言葉を書にして取り組んだ。提出された習字については、佐藤史伸(部長)と松坂政広(TLP 担当)近藤紫織(国語科)が昼食時に解説を担当した。今回、掲載しているのは「人」以上の評価を受けた習字の一部である。なお、生徒氏名の箇所は白塗りをしてある。提出された習字は、集め物の委員が高等部食堂に貼りだし、習字解説を経て、東西の板壁に貼り直す作業を行った。「紹介したい習字」の解説は食堂内のスクリーンを利用した。

特筆すべき点として、書き初めの貼り出しが挙げられる。昨年度まで男子部では、記念ホールに判の有無に関わらず全校生徒の書き初めを掲示していた。女子部では、「人」以上の判が押されたものを女子部体操館(現高等部体操館)に掲示していた。集め物の委員が高 1 の担当になったこともあり、高等部講堂の大きさと在籍人数を計算し、3 日間に及ぶ真剣な貼り出し作業を経て、高等部全生徒の書き初めが貼り出された様は圧巻であった。

なぜ、習字を書くのか、習字の学びの意義はこの時代にどこにあるのか、生徒と議論をし続けた 1 年間であった。毎日を共にする同志の思考を知り、響き合い学び合う手段の一つとして、生徒一人ひとりが自ら表現する楽しさ、奥深さを学ぶ手段の一つとして、今年度もこの学びが葛藤の中にも継続されたことはそれだけで確かな意義があると言える。

以下は、講堂に書き初めを貼り出した時の様子と通常の習字で「地」の評価を受けた習字である。



高等部 1 年

四年
頂戴
祝う

高一
白雪に
夢注ぐ

四年
衝突

高一
思考
する

高一
澄んだ
空

高等部一年
先ず
受け止める

高一
今を
熱く

高一
道草
楽しめ

高等部 2 年

高一
足りない
のは時間

高二
愛する
上級生

高二
満面の
笑み

高二
次は何を
しようか

高一
茨の道
を選ぶ

高一
頂きに
吹く風

高二
目到達

高二
これが私の
十六年

高三 自己の
発見

高二 君が
ため

高二 生活に
学ぶ

高二 信じる
ことは

高等部3年

高三 愛しさを
胸に眠る

高三 謙虚に
生きる

高三 瞳を
輝かす

高等部3年 楽しかた
梨花祭

高三 己との
戦い

高三 時間の
使い方

高三 強く
なりたい

六年 続く
会話

高三 認める
在り方

高三 自律心
を持つ

六年 最高の
瞬間

高二 心が
輝いて